苫工同窓会

発行
苫工同窓会本部
幹事長　紺屋　隆
苫小牧市高丘6－22
TEL0144－37－3088

平成二十三年度 定期総会開催

苫工創立90周年記念 式典・祝賀会

— 平成25年10月19日(土)に —

平成二十三年度定期総会が五月二十八日(土)、グランドホテルニュー王子若草の間において約八十名の出席のもと、開催されました。

岩本会長より、日頃における会員の熱心な支援にたいするお礼のことばがありました。また平成二十五年十月には、苫工創立九十周年記念式典・祝賀会を開催する旨、告げられました。

総会は議長である岩本会長のもとで進められ、最初に事務局より報告事項、協議事項の説明があり、原案通り承認されました。

創立九十年記念

第三号議案として創立九十年記念について提案がありました。

本年二月に準備委員会を開催。また三月には第一回常任理事会が開催され、協賛会役員、会則、記念行事等が承認され、決定しました。

・記念式典
平成25年10月19日（土）
苫工体育館
・祝賀会
平成25年10月19日（土）
於　グランドホテル
ニュー王子

なお、具体的な行事・事業の内容は、第二回以降の常任理事会で決定の予定です。

感謝状の贈呈

同窓会発展に功労のありました次の方々に感謝状の贈呈がありました。

（故）木谷　駿夫　様
支部長歴任
（関東六華会）
茅森　寿和　様
支部長歴任
（岩倉建設）

懇親会

（鈴木芳治教頭歓迎会）

総会後、同会場において懇親会が行われました。

懇親会では、恒例となっています各支部の状況報告がありました。本年度の総会には遠方の茨城県より工化26回梁川保雄氏、電気31回関東六華会会長坂本敏弘氏が出席。東日本大震災の大変な状況等のお話がありました。

つづいて抽選会が行われました。小林酒造・杜氏、南氏（化59回）の協力により、抽選が行われました。

同窓生が作った製品を抽選会の景品としていることから、本年度は更に一品、景品が加わりました。安平町追分の「北のなのはな会」が販売している「畑のしずく」（菜種油）。自家生産の菜種油を特殊な製法で抽出。その活動の中心になっているのが、土木51回小西克典氏。新聞やインターネット等でも広く紹介されている話題の製品。

当選者がダブって出るハプニングもあり、終始和やかな雰囲気で進められました。

予定時間も進み、全員で大きな輪になり校歌の大合唱。締めは安宅利雄氏（建17回）の発声で万歳三唱。

来年度も同会場で5月26日（五月最終土曜日）に開催されることが告げられ、再会を誓い、散会となりました。

東日本大震災一考

会長　岩本　靖雄

二〇一一年三月十一日十四時四六分、東北地方を中心とした未曾有の大地震・大津波、「東日本大震災」から三ヶ月を経たとはいえ未だ復興への道筋は国から示されないままの避難所暮らし、そうして福島第一原子力発電所の放射能問題が重なって国内だけではなく世界中が混乱しています。

こうした大きな復興問題を抱えながら、国会は党利党略、私利私欲にしか目を向けていないようで、国民不在の状況といえるでしょう。これが「国のかたち」なのかと思うと誠に残念でなりません。一方、国の動きとは別に全国からのボランティア活動は実に素早いものがあり、それは義捐金であり衣食であったり、また労力奉仕と被災地の方々から感謝されているのを見ると、国の復興への取組とは相当の開きがあるように見受けます。あの「阪神淡路大震災」以降における日本人のボランティア活動への考え方、取組は大きく変わったのではないでしょうか。私はボランティアというのは人に押しつけられて行動するものではなくて、個々人の奉仕という精神が出発点であると考えた時、小学校の高学年位から基本的なこと、あるいは簡単な体験をさせることで、より身近な事として理解して貰えるのではないかと思いますし、高校生になるとクラブ活動の一環として活躍の場が拡がると思います。今回の震災では、同窓生が尊い命を亡くされ、また被災された方も数多くいると伺っております。改めて同窓生を代表して哀悼の意を表しますと共にお見舞い申し上げます。

本年度の総会も無事終えることが出来ました。また二〇一三年の母校創立九十周年記念事業協賛会も発足し、具体的な事業内容の検討に取組むことになりますが、節目節目において皆様方へ報告をさせて貰いますので、その折りには絶大なるご支援とご協力をお願いいたします。また、同窓会をより身近な存在として理解して頂くために、部会の設置・総会開催時間等、今総会において決定致しましたので今後共よろしくご協力の程お願い申し上げます。結びに、苫工同窓会各支部の益々の発展と同窓生諸兄のご健康とご活躍を祈念申し上げます。

作家 小檜山 博氏 母校生徒に講演

苫工では毎年、進路指導の一環として「職業指導講話」を開催しています。本年度は作家小檜山博氏（電31）のご厚意により講演が実現。「社会へ出るために」と題して社会人となるための心構えを熱く語りました。

「人は苦しみ努力することにより、考える力がつく。真の学力とは自ら考え、生きる力を付けることであり、そのために勉強が大切」。更に「生きる力とは、他人の心を感じ取る力、他人と協力する、自分の感情をコントロールする力が最低の条件」。

氏が今日を築かれるまで苦労され努力された経験から「自分がどれだけ社会や仕事に合わせられるかが大切」と進路選択の際の仕事にたいする心構えを後輩に伝えました。

母校探訪 家庭科実習棟

平成8年度より全国の高校では家庭科が必修科目になっています。苫工でも二階建（一階調理・二階被服実習室）の家庭科実習棟が建設され、女性教諭のもとで全員が座学・実習の授業を受けています。

苫工では三年時、週二時間の授業があり、エプロンを縫ったり、和洋中華の調理実習を行っています。

何でも買える時代だけに自分で作ることは新鮮であり、また直ぐに成功体験が出来るといったこともありどの生徒も熱心に取り組んでいました。

総会スナップ

懇親会

余興（抽選会）

全員で校歌斉唱